

ラグジュアリーホテルからビジネスホテル、カプセルホテル、そしてレジャーホテルと、さまざまな宿泊空間を利用者の視点から「体感」するホテル評論家・瀧澤信秋氏。同氏が実際に利用者として体感した最新のレジャーホテルの「感動」空間、「イチ押し」サービスをレポートする。



ホテル評論家  
瀧澤 信秋氏

## PROFILE

日本で数少ない宿泊者・利用者目線のホテル評論家として、テレビやラジオへの出演、雑誌・新聞連載など、多方面で活躍。著書に「365日365ホテル上」(マガジンハウス)、「ホテルに騙されるな! プロが教える絶対失敗しない選び方」(光文社新書)、「ホテル評論家が自腹で泊まる! 最強のホテル 100」(イースト・プレス)、「辛口評論家、星野リゾートへ泊まってみた」(光文社新書)など <https://sites.google.com/view/hoteltakizawa/>

## ZUMI TERRACE うちなーみやリゾート宮古島 (沖縄県宮古島市)

### 世の中の不具合にビジネスは生まれる —レジャーホテル経営者哲学が沖縄の離島で花開く

沖縄・宮古島にあるそのリゾートホテルへは当初9月に出向く予定であった。ところがというか当たり前というか台風シーズン真っただ中であえなく中止に。飛行機が飛ばなくては沖縄へのアクセスはほぼ不可能。翻ってホテルが増え続ける沖縄だが、飛行機の定員分しか来島できないのもまた真実である。かように沖縄のホテルにとって台風は脅威であり、その影響による停電や災害もまた大きなリスクとして捉えられている。

ホテル評論家として非常に興味を抱いたそのホテルとは、「ZUMI TERRACE うちなーみやリゾート宮古島」という太陽光発電と蓄電池で客室内の電力を賄ういわばオフグリッド型ホテルだ。“停電しないホテル”を謳う。年間を通して客室内100%電力を太陽光発電と蓄電池 TESLA Powerwallにより賄われ、周囲の台風停電時も停電しないホテル。11月に入り訪問が叶った。ヴィラタイプ、コンテナホテル風のイメージであるが、立体感のある客室には洗濯機、ガス乾燥機、電子レンジにミニキッチンなど快適に滞在できるアイテムがパズルのように組み込まれている。それにして開放感があるのはやはりテラスがあるからだ。テラスにはサウナー垂涎のバレルサウナ(台風等の停電時にはオフにされる)のほかにテラスバスも備わる。

ホテル全体を見渡して印象的なのが駐車場の台数だ。驚くことに全室に電気自動車レンタカー付きという(貸出はチェックイン当日の10時より返却はチェックアウト日の18時迄/2,000円~)。レンタカーは宿泊者のみ利用可で日産の電気自動車中心であるがテスラも駐車している。移動といえば施設にはタクシー直通電話が設けられており、タクシーアプリ主流の島にあって無料直通電話でタクシー事前予約も確約できるのは逆転発想のサービスだ。そんなレンタカー、客室数分車

を用意すればいいわけではなく上述の時間のとおり1泊2日で貸し出すので、当日チェックインゲストぶんも手当する必要がある近隣の駐車場にはさらに何台も準備されている。また、宮古島にはガソリンスタンドは限られるのでなんと洗濯機も購入し設置したとのこと。

余談であるがこの一角にはランドリー工場もある。宮古島もホテル活況で大型ホテルも増えランドリー業者のコストも高騰しており、リネンの確保や安定供給のためにインソーシングしたという。ポリエステルというシーツの仕上がりの素晴らしさは夜実感すること。とにかく離島ホテルでの不具合をリソースとして次々とゲストサービスへ繋げていくポテンシャルの高さ。さらには電力自給自足の災害に強いホテルというだけでなく、管理棟内にはAEDが設置されておりゲストが万一の際にも対応できるよう安心安全なホテルを目指しているという。このAEDは全国AEDマップにも登録されており、近隣エリアの住民にも万一の際には24時間365日いつでも利用できるようにしているという。

そんなリゾートホテルのオーナーはこれまで人気レジャーホテルを次々と手がけてきた人物だ。今回のホテル開業に際しては移住し2年半宮古島に身を置き、徹底して宮古の文化、住民との交流を続けてきた。いまでは完全に島人(しまんちゅ)だ。島の方々に信頼されなければ誕生しなかったホテルとも評せる。世の中の不具合にビジネスは生まれるというのはレジャーホテル業界ではより際立つリアルであるが、レジャーホテル経営者の経営哲学が沖縄の離島で花開いたホテルであった。

ZUMI TERRACE うちなーみやリゾート宮古島  
沖縄県宮古島市下地与那覇783-1  
<https://uchimiyaresorts.com>

